早乙女勝元さん講演会「ハロランの東京大空襲」開く

東京大空襲の体験者・記録者として知られる作家の早乙女勝元さんは、２０１２年２月に、『ハロランの東京大空襲　～Ｂ２９捕虜の消せない記憶～』（新日本出版社　１４００円）を出版されました。

元Ｂ２９飛行士ハップ・ハロラン（１９２２～２０１１年）は、１９４５年1月２７日の中島飛行機武蔵製作所への空襲時、茨城県神栖市に撃墜されて捕まり、東京憲兵隊に拘留中、３月１０日の東京大空襲に遭い焼死の恐怖に怯えました。また、大森俘虜収容所へ移される途中、動物園らしい所へ連れて行かれて全裸で１昼夜公衆の面前にさらされるという凄惨な体験をし、大森俘虜収容所へ移されてからも終戦で解放されるまで「特殊捕虜」としての苛酷な生活を送りました。

彼は２０００年秋以来、何度か来日し、神栖市の墜落現場、元日本軍パイロット海法秀一氏宅、東京憲兵隊跡地、上野動物園、大森俘虜収容所跡地、京都、神戸、広島、長崎などを訪ね、早乙女さんをはじめ多くの日本人と親交を結びました。

翌２００１年には、早乙女さん主催の「もう一つのアメリカの旅」が実施され、約３０人がカリフォルニア州サンフランシスコ郊外のハロランの自宅を訪れて体験の聞き取りをしました。

翌２００２年には、東京大空襲戦災資料センターの開所式にハロランが来日してあいさつし、彼はそれ以来、同センターに寄付金を送っていました。

しかし、残念ながら、彼は２０１１年６月に亡くなりました。

そこで、早乙女勝元さんの出版記念やハロランの追悼を兼ねて、早乙女勝元さん講演会「ハロランの東京大空襲」（主催：ＰＯＷ研究会）を、２０１２年７月２１日（土）午後に、大阪経済法科大学東京麻布台セミナーハウスで開きました。

参加者は４５人でした。

早乙女勝元さんのお話、ハロランの来日を追ったＮＨＫ衛星放送制作の番組「ある捕虜の旅」（２００４年）の映写、参加者によるトークなどがあり、講演会終了後、隣の中華料理店で懇親会を開きました。（福林　徹）

早乙女さんの新刊書

講演する早乙女勝元さん

参加者によるトーク